

平

藤原姓

高五拾俵三人扶持 校了

猪俣

家紋 丸二井桁七耀

家傳に平氏にして猪俣能登守則直か後裔なり彦右衛門則永の宝永七年御家人に加へられ三代相續て則温にいたるといふ案するに則直 猪俣小平六範綱か後なり範綱は武藏七黨系圖を考るに小野氏にして横山黨なり家説疑ふへしといへともしはらく平氏支流の末に収む

猪俣小平六四代勘解由左衛門某
武州那賀郡猪俣村郷士 二而罷在候
右衛柴左衛門則政惣領

則長

猪俣彦右衛門

母 家女

妻 浪人 村越勘兵衛某女

宝永七 寅年月日不知関宿川浚役御抱
入御切米五拾俵三人扶持○享保六 丑年
月日不知御暇○寛保 酉年十月二日病死
九拾 三歳牛込正倉因葬

則貞

猪俣儀左衛門

初儀助 隠居意扇吉次郎

母 浪人 村越勘兵衛某女

妻 天野平右衛門某女

享保六 丑年月日不知関宿川浚役父彦右衛門
明跡 江御抱入五拾俵三人扶持○享保十三 甲年
正月八日大川通御普請役○延享三 寅年五月
六日御人減 二付小普請○寛延二 巳年三月十八日
井藤平三郎組同心御入人○宝曆元 未年三月
廿四日病氣 二付御暇○同二 甲年五月十八日病死
六拾 八歳同寺 二葬

女子二人

御徒 山村常右衛門某妻

御徒組頭 阿佐美伊佐衛門正辰妻

則温

猪俣要右衛門

初 吉次郎

母 山名勲負家来 天野平右衛門某女

後妻 荒井志賀右衛門友信女

本多越中守家臣 前妻 二藤磯右衛門一賢か女

享保二十 卯年三月十九日大川通御普請役見習
○元文五 甲年九月十一日高四拾五俵被下同御普請
役御抱入○寶曆八 寅年十一月廿九日高五拾俵
三人扶持御金拾両被下御抱替四川用水方雄
普請役元 ノ○安永六 酉年三月十二日支配
勘定○同年七月廿五日備中国私領入會地
先新開見分吟味御用御暇金式拾両○同七
戌年十二月廿日濃州勢州川々御手傳御普請

御用御暇金式拾両同八 亥年五月廿三日右

御褒美銀式拾枚○同年八月七日相州鎌倉

靄 ケ岡八幡社 并諸堂社見分目論見御作

事方立會御暇金拾五両○同年十二月二日

東海道筋川々内郷私領 并伊豆国私領共御手

傳御普請御用御暇金式拾両同九 子年三月

廿九 五日御褒美銀式拾枚○同年四月九日関

東筋川々内郷共御普請目論見替御用御暇

金式拾両○同年八月十日関東川々内郷共見

分目論見御用御暇金式拾両○同年十二月十八日

関東川々内郷共御料私領村々御手傳御普請

御用御暇金式拾両天明元 丑年四月廿六日御褒

美銀式拾枚○天明二 寅年二月十二日下総国印

幡沼新開見分吟味御用御暇○同年七月八日

同所新堀割御用御暇○天明四 辰年正月廿六日

御勘定○同二月十五日 御目見○同七 未年八月

故ありて 四日小普請○寛政二 戌年十一月廿五日私養女

一柳勘之丞直里妻ありて 遠嶋被 二仰付候 二付同日 ノ閉門同三 亥年二

月七日御免同四年六月朔日死七十五歳同寺 法名勇義

以下略

以下略